

OUTLINE of PROGRAM

[研修プログラム紹介]

基礎研究医プログラム

2027年度定員 2名 (予定)

定員およびプログラムの詳細はホームページでご確認ください



▶▶▶ 臨床研修と基礎研究の両立を可能とする基礎医育成プログラムです。

※ローテーションは順不同

1年次	内科 (24週)		救急 (8週) + 麻酔 (4週)	外科・小児・産婦・精神 (1～3診療科・各4週)
2年次	地域 (一般外来・在宅医療を含む: 4週)	外科・小児・産婦・精神 (末研修の診療科: 各4週)	選択 (~40週) (基礎医学系教室での研修期間を含む)	

- 一般外来研修は、内科(総合診療科を含む)、小児科(慶應義塾大学病院でのみ)、外科および地域医療で4週以上行います。
 - 原則、1年次の救急科12週のうち8週を救急科研修、4週を麻酔科での救急部門の研修とします。
 - 2年間のうちに、外科、小児科、産婦人科、精神・神経科の4つの必修科目を研修します。
 - 2年次の選択研修期間中に、16週以上24週未満の間は基礎医学系教室に所属し研究活動を行います。
- *当院の研修は休診日、GW・年末年始等を考慮し、1年を48週間換算した週数にて研修を行います(4週は調整期間)。

基礎医学系教室での指導分野

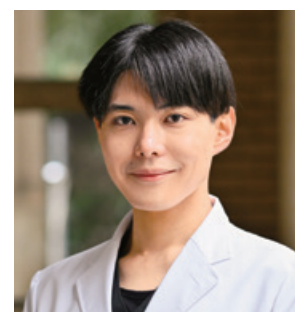
1	解剖学
2	生理学
3	薬理学
4	医化学
5	分子生物学
6	衛生学公衆衛生学
7	感染症学
8	病理学
9	微生物学免疫学
10	法医学
11	医療政策・管理学
12	臨床遺伝学・先天異常学
13	細胞組織学
14	脳科学
15	拡張知能医学
16	がん免疫学

MESSAGE 05

[研修医からのメッセージ]

研修と研究を両立できる理想的な環境

私が慶應義塾大学病院を研修先を選んだ理由は、指導医の先生方が非常に教育的であり、個人のやる気次第で密度の高い研修を送ることができるかと先輩研修医から伺ったためです。加えて、学生時代から続けてきた基礎研究活動を途切れさせることなく臨床研修と並行して発展させたいと考え、この基礎研究医プログラムを選択しました。本プログラムの大きな魅力は、最大半年間、研究活動に専念できる期間が設けられているが、初期臨床研修も着実に修了できる点にあります。研修環境としては、指導医の先生方が日々の診療の中で丁寧に指導してくださり、疑問点にも気軽に相談できる雰囲気があり、非常に学びやすい環境だと感じています。また、専門性の高い症例が集まる大学病院ではありますが、common diseaseを学ぶ機会も十分に存在しています。実際に、全身状態不良で入院された患者さんを指導医の先生と継続して診察することで、病態の把握から治療方針の検討に至るまで一般内科的な診療の進め方や全身管理について実践的に学ぶことができました。基礎研究医コースは学生時代から研究活動を行っている人に向けたコースと思われるかもしれませんが、研修医になってから研究を開始された先輩もおり、臨床研修を行いながら研究にも挑戦したい方にとって、非常に理想的で魅力のあるコースだと感じています。



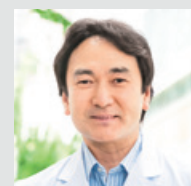
2025年度
基礎研究医プログラム
生田 光
(2年間、慶應義塾大学病院)

MESSAGE from CENTER STAFF

「診療のできる基礎研究医」を養成し、キャリア形成の幅を広げます

世界的に基礎医学研究の重要性が再認識されている中で、厚生労働省が新たに打ち出したプログラムです。基礎医学研究に意欲がある方を対象に、慶應義塾大学が有する恵まれた環境とリソースを活用して、臨床研修と基礎医学研究の両立を目指します。1年目には各診療科領域の指導医から基本的診療やチーム医療を学ぶと共に、受け持った症例や遭遇した医療上の未解決点を研究課題へと変換する思考法を学びます。また、2年目の選択研修期間のうちの一定期間(16週～24週)

基礎医学系教室に所属して医学研究を行うことができます。このプログラムでは臨床研修の到達目標を達成しながら「診療のできる基礎研究医」を養成しますので、社会からのニーズに応えるだけでなくあなたのキャリア形成の幅を大きく広げることにつながります。慶應義塾大学医学部では、様々な研究領域の最先端を走る研究者が指導者となり、この新たなプログラムの目的の達成に最適な環境を提供できますので、是非挑戦してみてください。お待ちしております。



[プログラム責任者]
卒後臨床研修センター
平橋 淳一